

「日本・マレーシア国際消防防災フォーラム2017」の開催

参事官

1 はじめに

経済発展や都市化が進んでいるアジア諸国では、これまで以上に高度な消防・防災体制を構築する必要性が高まっており、これらの国から我が国に対し、人命救助や消火の技術、火災予防制度等についての知見の共有や技術の移転に対する要望が増加しています。

このことを踏まえ、消防庁では我が国の消防技術・制度等をアジア諸国を中心に広く紹介する国際消防防災フォーラムを平成19年度から年に1度開催しています。

10回目となる本年度のフォーラムは、平成29年12月6日、7日に、マレーシアのクアラルンプールにおいて「日本・マレーシア国際消防防災フォーラム2017」と題し、マレーシア消防救助局との共催で実施しました。

平成28年度もマレーシアにて開催しましたが、同消防救助局より、日本の消防機関による災害対応についてより詳細な内容を知りたいとの強い要望があったことから、今年度も引き続きマレーシアでの開催に至りました。



フォーラム 開会式

2 フォーラムの概要

フォーラムは、在マレーシア日本国大使館の折笠弘維公使のスピーチで幕を開け、その後、山田常圭消防研究センター所長より日本の消防機関による災害対応に関するプレゼンテーションが行われました。その他、日本側からは消防庁特殊災害室、尼崎市消防局、福岡市消防局がプレゼンテーションを行うとともに、マレー



会場内の様子

シア側からも2テーマのプレゼンテーションがなされ、活発な意見交換が行われました。特に、マレーシア側の参加者から多くの質問があり、日本の制度やシステムに対する関心の高さが感じられました。

また、フォーラムには我が国の消防・防災関係企業（14社）も参加し、各企業の取扱製品についてのプレゼンテーションに加え、会場に設けた展示ブースにおいて、製品の展示や紹介が行われました。フォーラムの実施は、官民連携して日本の知見、経験、技術等を海外に展開する良い機会となりました。



日本企業による製品紹介

3 おわりに

マレーシアでは、更なる都市化が見込まれる中で、これまで以上に高度な消防・防災体制の構築が必要になっていくものと思われます。今回のフォーラムの成果が、そのための一助となることを期待しています。

発表テーマ

【日本側】

- 日本の消防機関による災害対応
- 日本の石油コンビナート等の防災対策
- 兵庫県尼崎市における列車脱線事故時の救助活動
- 日本の消防機関による都市型災害対応（USAR）

【マレーシア側】

- マレーシアにおける防災施策～制度と課題～
- ペナン洪水における災害対応～マレーシア消防救助局の経験～

問合わせ先

消防庁国民保護・防災部参事官付 柿本、寛
TEL: 03-5253-7507